

学生時代から物流研究に専念するまで

苦瀬 博仁

流通経済大学には、前任の大学を定年退職してから7年間お世話になりました。この間、大した貢献もできず、むしろ皆さまにご迷惑をおかけする方が多かったように思いますが、私にとっては極めて幸せな時間でした。というのも、大学の教員には様々な業務があるなかで、研究と教育に専念できる恵まれた環境をいただいたからです。

ですから、流通経済大学の皆さまには感謝しかありません。

今回、執筆の機会をいただき、何を書くか迷いましたが、ときおり学生諸君から、また世間の人からも、「なぜ物流を研究するようになったのですか」と聞かれることがあったので、この機会に今までを振り返ってみたいと思います。

大学は土木工学科で都市計画を勉強していました。卒業論文では、「交通と通信の流動」というタイトルで電話のトラフィックと旅客交通を比較しました。遠いと電話を使い近いと対面するという当たり前の結論でしたが、後の情報と物流の間で生じる代替・相乗効果の研究に繋がりました。修士論文では、「都市機能の比較分析—都市の小売商業機能の比較分析—」というタイトルで、商業と都市規模の関係を分析し、卸小売業の階層性と立地論の関係を明らかにするとともに、物流の研究に近づくことになりました。博士論文では、「地方中心都市の中心業務地区（CBD）の研究」というタイトルで、都市の業務商業機能の分析をしながら、都市規模にともなう都心の規模と形状、そして業務機能と商業機能の役割の変化を明らかにしました。この研究は、その後の都市における物流の役割を考えるきっかけにもなりました。

大学院終了後に5年ほど民間の建設会社に勤めましたが、当時の部長の「物事は、誰が言ったかではなく、何を言っているかで判断しなさい」、「30代は30年後、40代は20年後、50代は10年後のために仕事をしなさい。明日のための仕事は60歳になってからで間に合うから」という言葉が、今でも忘れられません。

その後、東京商船大学に移りますが、呼んでいただいた先生に「船のことは知りませんが」と話したら、「船のことは知らなくてよい。これからは、海陸一貫輸送なのだから、君には陸の物流を担当してもらおう」とのことでした。当時は、「都市計画屋が物流をや

るなんて…」と首をかしげる人も多くいましたが、「物流無くして都市は無い」と語る何人かの先生たちに背中を押していただき、物流の世界に飛び込むことになりました。

転職直後、ある先生から「君は、土方の学科を卒業して、船方の大学に来て、馬方の勉強をするのか」と冗談交じりに物流研究を認めていただきました。また別の先生からは「急いで論文を書くよりも、じっくり体力をつけてください」と言われて文献を読む時間を与えていただきましたが、「物流には、物的流通と物資流動がある」と気づくまで時間がかかりました。3年ほどたったとき、会社員時代の後輩に「研究は、他人のせいにはできないから大変。自分の非力さを感じる」と愚痴をこぼしたら、「会社に戻りたいなんて言わないでくださいね。3年も大学にいたら会社に戻ることは難しいですよ」と言われ、「もう後がない」と覚悟したことを憶えています。

その後、一時音信不通だった物流研究の恩師に再会でき、文字通り個人授業を受けたことは、今でも大きな財産になっています。そして、東京商船大学が東京海洋大学になりましたが、副学長時代を含め管理業務に多くの時間を割かざるを得ませんでした。

東京海洋大学の定年後に、流通経済大学にお世話になったことは、極めて幸運でした。そして、今までの研究をまとめる時間をいただけたことは、大変に幸せでした。

振り返ってみると、日本のロジスティクスは、いまだに発展途上ではないかと思うことがあります。明治時代以降は兵站軽視の歴史が続き、この思想が戦後も民間企業に引き継がれて、欧米とは異なる偏見に近いものすら感じます。しかし、環境問題や資源問題などが話題となり、国連がSDGsを提唱している今日、社会的価値を無視して経済的価値だけを追い続けることには限界があるでしょう。加えて、自然災害や新型コロナ問題などで、物流の重要性が改めて認識されているようです。ようやく物流やロジスティクスに、光が当たり始めました。

今後は財団の理事や民間の研究所の顧問などをしながら、研究を続けていきたいと思っています。「都市と物流」、「ロジスティクスとサプライチェーン」、「物流の歴史」などに加えて、学際的な分野としてのロジスティクスについて、経済学、経営学、マーケティング、交通工学、都市計画、医学など他分野と方々と接点を探しながら、「経済的価値を超えて、社会的価値を高めるロジスティクスの姿」を模索したいと思います。

欧米と異なり、物流やロジスティクスを総合的に教育研究している大学は数少ない我が国ですが、流通経済大学はその中でも極めて重要な位置を占めていると思います。ロジスティクスの教育研究拠点として、今後とも発展することに間違いはないでしょう。

流通経済大学の先生方や事務の皆様をはじめ、多くの方々に大変に親切にいただき、自由な研究の時間を与えてくださったことに、改めて感謝いたします。

流通経済大学の益々の発展を祈念することで、お礼の言葉とさせていただきます。

長い間お世話になり、本当にありがとうございました。